

令和2年10月26日

第10回（10月）

定例教育委員会会議録

荒尾市教育委員会

令和2年10月 定例教育委員会 議事録

1. 日 時 令和2年10月26日（月）10時10分

2. 場 所 11号会議室

3. 出席委員

教育長	浦部 眞
委員	境 民子
委員	西尾 直子
委員	旭田 國浩
委員	渡邊 義専

4. 出席事務局職員

教育次長兼教 育振興課長	橋本 張幸	学校教育課長 兼教育審議員	永杉 尚久
生涯学習課長	宮脇 浩司	指導主事	成瀬 典子
指導主事	溜渕 知昭	課長補佐兼学 務係長	畑山 鉄也
教育政策係長	畑山 鉄也	給食センター 所長	永吉 万寿美
給食センター 整備推進室長	岡村 哲明	社会教育係長	馬場 理恵子
スポーツ推進 係長	前田 恵子		

- 教育長 ○開会宣言 令和2年10月26日（月）10時10分
 ○会議成立の確認（全員出席）
 ○議題、会議の日程等の承認
 ○会議録署名委員の指名（境委員）

1. 前回会議録の承認（渡邊委員）
2. 議案

【議第41号 荒尾市立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則について（教育振興課）】

- 事務局説明
- 質疑

各委員	特になし
-----	------

【議第42号 荒尾市立学校の教育職員の在校等時間の上限等に関する方針（案）について（教育振興課）】

- 事務局説明
- 質疑

委員	資料14頁の（ハ）正規の勤務時間外に自らの判断に基づいて自らの力量を高めるために行う自己研鑽の時間その他業務外の時間とあり、その上にハについては、当該教職員の申告に基づくところがあるが、現場で難しいと思うがどうか。夏休み全日を在宅勤務で自己研鑽に努めたいと申告があった時に、それでいいのかと懸念が残る。子どもと接しての教員というのがどうしても頭の根底にある。資料の「ロ」のテレワークも同様。大丈夫なのかと感じる。このようにしなければいけないのは理解できるが、どのような形にしる現場から離れることが、担任以外の職員にしわ寄せがいかないか心配する。以前の教頭先生は、17時以降からしか自分の仕事ができない現状であった。今もそうかもしれないが。資料17頁にある本市独自の支援として、校務支援システムの導入とあるが、大丈夫なのかと思う。外国では、教師の業務は教えるだけ、他の業務は専門業者が入り分業されていると聞く。丸ごと抱え込んでいる日本の学校は、これから分業化していく過渡期なのかとも感じる。方針に反対しないが心配をしているところ。
教育長	確かに、いままでの学校の在り方とは変わってきている。しかし、学校教育課が今までも言ってきているが、最終的には人と人のつながりの中での学校教育を大事にしている。
委員	それが本来のあるべき姿であると思う。しかし、先生と子どもたち、先生と先生同士がどこでつながるのかと感じる。早く帰るようにとか留守番電話導

教育長	<p>入とかになるとつながりが希薄となる。しかし、働き方改革の推進があり、教職員のオーバーワークの現実がある。昔はオーバーワークを生き甲斐とし今日も一日頑張ったと喜んで帰っていたが、もうそのような時代ではないことは理解している。</p> <p>過渡期にきているのだと私も感じている。</p>
-----	---

【議第 43 号 『荒尾市教育 ICT 整備計画(改訂版)』（案）について（教育振興課）】

○事務局説明

○質疑

委員 事務局	<p>ICT 支援員の増員と計画にあるが、増員の目途は付いているのか。</p> <p>これから予算要求になるが、委員会としては 4 名分の予算要求をしていきたい。その委託先とも人員確保の件については相談し可能であるとの話をいただいているところ。</p>
委員	<p>これから、学校において ICT を活用していくには、ICT 支援員の力が重要となってくると思われるので是非人員の確保をお願いする。</p>
委員 事務局	<p>タブレットは家に持ち帰るのか。</p> <p>資料の 30 頁に活用目標を設定し記載している。令和 3 年度は、校外及び家庭での活用を月 2 回以上、令和 4 年度は月 3 回以上としている。基本的に校外や家庭で利用できる環境を整備し活用を図っていきたい。</p>
委員 事務局	<p>家庭に端末を持ち帰るとのことなので、保護者向けに使い方の講習会があればありがたい。</p> <p>どのようなことができるか検討したい。</p>

【議第 44 号 令和 3 年度土曜授業の方針について（学校教育課）】

○事務局説明

○質疑

委員	<p>丁寧な聞き取り調査大変であったと思う。ただいま説明のあった 40 頁の課題に記載されている土曜授業へのニーズが多様であり対応しきれていないというのは、裏を返せばやりたいことがたくさんあるということ。通常の授業であれば、やりたいことではなくて全部しなければいけないこと。土曜授業において、教育長が推進している「特色ある学校づくり」につなげてほしい。今子どもたちにつけてほしい力は土曜授業を活用して身に付けてほしい。よって、土曜授業を減らすのではなくできるだけ減らさない案 1（年 7～8 回程度）に賛同する。</p>
----	--

委員	<p>学童での様子を見ていると学力面で厳しいお子さんがたくさんいるので、それを少しでも補える場や地域の人とのふれあいの中で自信をつける経験ができる場として土曜授業の必要性を感じる。できるのであれば、1案がよいと思う。先生方の負担になると思うが、子どもたちとつながる、子どもたちが地域を含めた周りから認めてもらえる、学力を安定させるという面においてもこのまま続けるもしくは年7~8回お願いしたい。</p> <p>子どもとも話したが、このままでいいと言っていて、私も土曜授業はありがたいし良い経験の場と捉えていたが、先生たちのアンケートで68%やめた方がいいとあり、もう何も言えないなと感じたのが正直な気持ち。</p>
委員	<p>そもそも土曜授業を実施することになった経緯は、地域の人との交流の時間をつくるのが目的だったのか。</p>
事務局	<p>経緯については、一つは地域の方たちとの交流のため、二つ目は学力面をカバーする大きくはこの二つが設定の目的であった。しかし、先生方が当初の目的を理解せずにやらされている感があったのかもしれない。現在、特色ある学校づくりオンリーワンの学校づくりを掲げているので、土曜授業を活用すれば、より意義を感じ取れるのではないかと思う。アンケートの中にはそもそも何のためなのかと問うてあるのもあった。</p>
委員	<p>地域の住民としてアンケートの対象であったが、なんと書いてよいのか考えた。地域の方や保護者に褒められて自信がついたという意見があり、土曜授業の実施する意義も感じたところ。中学生は減らしてほしいという意見が多かったようだが、やはり部活活動が土曜日に集中しているからかと感じる。私は、案1の7~8回で様子を見てもいいのではないかと思う。</p>

【報告第7号 荒尾市放課後子どもプラン運営委員会の委嘱について（生涯学習課）】

○事務局説明

○質問

各委員	特になし
-----	------

【その他 11月行事予定について】

○事務局説明

○質問

各委員	特になし
-----	------

【その他 次回定例教育委員会の日程について】

○事務局提案

事務局	次回の第 11 回定例教育委員会は 11 月 27 日（金）10 時 30 分から開催したいかどうか。
各委員	異議なし。
教育長	それでは、次回の第 11 回定例教育委員会は 11 月 27 日（金）10 時 30 分から開催する。

教育長

○閉会宣言 令和 2 年 10 月 26 日（月）11 時 10 分